

議事録要旨

会議名	第8回芦原温泉駅まちづくりデザイン部会
開催日時	平成28年12月21日(水) 19:30~21:30
開催場所	あわら市役所 201会議室(2階)
出席者 (敬称略)	<p>【部会員(7名)】 福井工業大学/川島洋一(教授)、市民/笹原修之、西田幸男、高木めぐみ、市民/細川正樹、竹内優美、山本紹央</p> <p>【オブザーバー(2名)】 大広/新島、大広北陸/渡辺(記)</p> <p>【事務局(3名)】 あわら市総務部政策課/小嶋(課長)、山口(課長補佐)赤神(主査)</p>
欠席者 (敬称略)	市民/森嗣一朗、八木康史、あわら市/長谷川義則、中辻雅浩、坂井真生
協議事項	基本整備計画書の改定への反映について
会議内容 の要旨	<p>進行)事務局 部会長挨拶: プレゼンテーションを伴う市民投票を終え、現実味を帯びて市民の気持ちも動くかなと思う。年明け早々に基本整備計画書の改定の最終決定も控えているので、これに将来デザインを反映させていきたい。</p> <p>新幹線推進課: 改定委員会の状況説明 将来デザイン(イメージ図)を現在の2案に寄せられるか。資料3に基づき説明。 ・芦原温泉駅の乗降客数について/鉄道利用者の需要予測 ・交通機能の役割と配置の考え方 ・西1案の説明/ロータリーを1つにまとめ、賑わい空間(約2,400㎡)の確保 ・西3案の説明/2ロータリー制を採用し、賑わい空間(約700㎡)を確保 ・賑わい広場の大きさはどの程度を想定するのか ・西1案だと将来デザインと整合性はとれるのか</p> <p><意見交換> 部会員: 西1案の賑わい空間は、大きすぎるのではないか。(賑わい空間が)活用されない場合、閑散とすることが心配。もっと小さいスペースでよいのではないか。 部会員: 遊びのある状態、駐車スペースなど余裕のある設置は出来ないか。新幹線開業時には全体が出来ていないといけませんが、段階を追って完成させていくことは出来るか。 部会長:</p>

議事録要旨

<p>用途については別の委員会が立ち上がる可能性はあるのか。この部会は将来デザインが選定され一応終了している。</p> <p>新幹線推進課： これからまちづくりの本番である。別の委員会を立ち上げる方法について検討中である。</p> <p>部会員： 大きい空間は大変魅力的。たしかに空きときは怖いが。</p> <p>部会長： ロータリーの配置は検討可能か。駐車場はどうなるのか。</p> <p>新幹線推進課： 現在駅横の駐車場の稼働率は9割。その正面の駐車場が4割。東口にある駐車場は2割の稼働率である。トータルで均せばスペースは間に合う。</p> <p>部会長： そのカウントは信用できるのか。</p> <p>部会員： 駅舎よりも降りたまちの雰囲気大切に思う。</p> <p>事務局： 再開発レベルでまちごと動くものを副市長中心に計画している。現在のタクシー会社がある部分（aキューブ近く）が再開発で取得する可能性も有り、賑わい空間が増える可能性がある。まちづくり会社の設立を支援するなど、民間活力も積極的に導入したい。</p> <p>部会員： まずこのデザインのとおりにしたいのか？という議論が必要ではないか。</p> <p>部会員： 西3案がいいのはないか。左右の駐車場とイベントスペースのバランスが丁度よい。</p> <p>部会員： 賑わい空間を2層にする発想はなかったのか。市民投票で選定されたデザイナーと調整した方がよいかと。採用はされなかったが、天蓋があると使用したい人が出てくるかもしれない。</p> <p>部会長： 金沢駅は手前にドームを設置し、新幹線駅の四角さを目立たなくさせており、まちに溶け込まない違和感を払拭できている。</p> <p>新幹線推進課： 比較検討の評価について、他の視点はありますか意見を伺いたい。</p> <p>部会員：持続可能性 部会員：施設維持 部会員：イベントは麻薬のようなもの 部会長：面積があれば様々なことにチャレンジしていけるか</p> <p>新幹線推進課：</p>

議事録要旨

広さの定義だが、700 m²だと賑わいを出せない？ 駅前の再開発はどうか。

部会員：莫大な金がかかると思う。

部会長：スペースの利活用会議を作らないと。

部会員：この部会ではないのか。

事務局：この部会を母体にやっていきたい。

部会員：（どうなったか）立ち消えがよくない。

部会員：（選ばれたデザイナーの）伊藤氏と現実的に詰めていかないと。

部会員：今はスペースを使いたい案が思いつかない。

部会員：それはこの部会がイニシアチブを取ってイメージに合わせた現実案を。

部会員：駅前だけでいうと西3案が良い。市民投票などを通じて、竹田川などの活用で視野が広がった。いろいろなところを繋ぐことを重要とするならば全体感で確認しないと。

部会員：究極の目標を決めておくのはよいと思う。駅前再開発となれば二期工事以上になると思う。

部会長：目標を持たなければならない。

部会員：夢を掲げた以上、向かっていかないといけない。

部会長：改定委員会ワーキンググループへの報告は、デザイン部会が市民投票で選ばれた伊藤案のイメージを基にしたものを求めていく、とさせてもらえばよいでしょうか。

新幹線推進課：そのとおり、意見ということで。

部会員：タイムスケジュールはどうか。

新幹線推進課：3月末に計画書として製本する。

部会員：1月前半でミーティング、1月中に絵を仕上げ、2月あたりに提示する。この計画書に間に合わせないと、本当にただの絵になる。条件の整備と伊藤先生のビジョン次第である。

新幹線推進課：改定委員会の藤澤氏との連携で景観や植栽についても検討を。

事務局：部会として伊藤先生と話をする。将来少しずつ稼ぐ力をつけて、経済を耕したいと思う。1月中に絵が描けるように。

以上